

新型コロナウイルスの影響下における中小企業の景況（令和元年10月～12月期、令和2年1月～3月期、4月～6月期、7月～9月期）

新宿区で四半期ごとに実施している「中小企業の景況調査」のコロナ禍における調査結果をまとめた。

【調査対象業種】

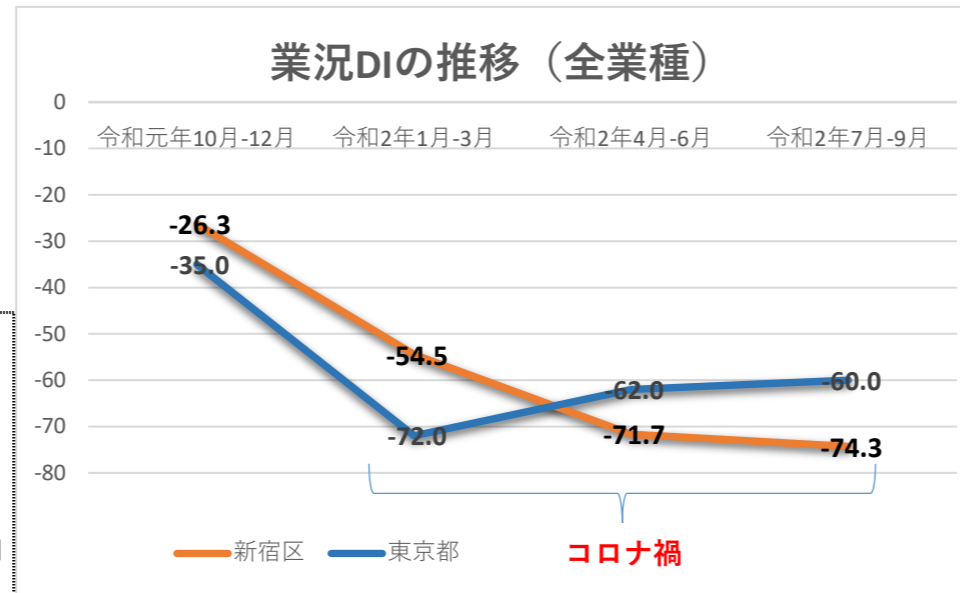
製造業、印刷・同関連業、染色業、建設業、情報通信業、卸売業、小売業、飲食・宿泊業、不動産業、サービス業

1 業況DIの推移（全業種）

業況：経済全体の景気状態ではなく、個々の企業ないし産業の景気状況。

DI（ディーアイ）：Diffusion(ディフュージョン) Index(インデックス)の略で、増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のこと。不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらかの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするもの。

期	新宿区	東京都
令和元年10月-12月	-26.3	-35.0
令和2年1月-3月	-54.5	-72.0
令和2年4月-6月	-71.7	-62.0
令和2年7月-9月	-74.3	-60.0



【回答者コメント（抜粋）】

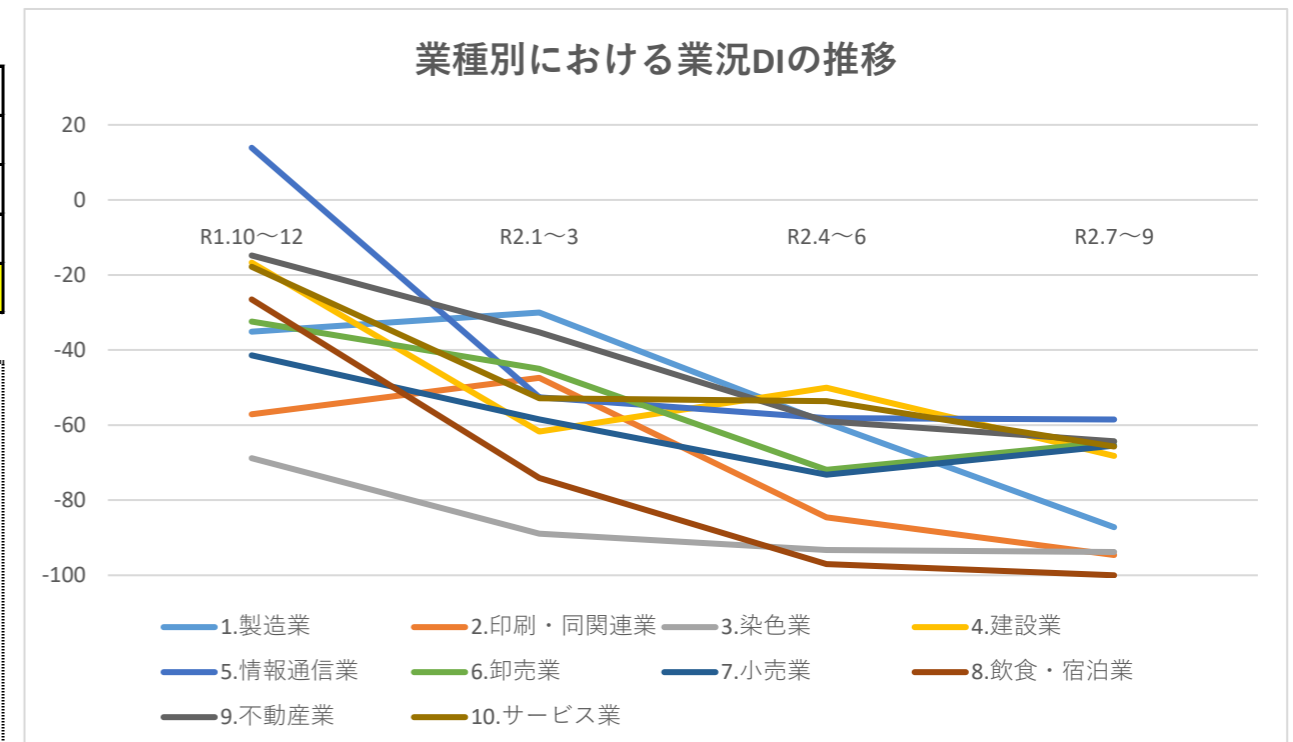
- ・収益なしが数ヵ月続いており、融資をお願いしている。（染色業）
- ・数か月間の資金繰りは融資により何とかかなりそうだが、このままでは資金が持たない。家賃交渉は芳しくなく、人件費等の固定費が厳しい。（飲食・宿泊業）
- ・飲食業の撤退で家賃収入の見込みが立たない。（不動産業）
- ・マスク、消毒液などの諸経費が増大しているが、その分の売上が増えるわけでもなく、利益を圧迫している。（情報通信業）
- ・大幅な売上減となっているが、財務体質の改善や雇用調整助成金の活用により、社員の雇用は維持できている。（サービス業）

区の令和2年1月-3月期の全業種の業況DIは▲54.5で、令和元年10月-12月期の▲26.3から大幅に下落した。翌期の令和2年4月-6月期では▲71.7とさらに下降し、直近の令和2年7月-9月期は▲74.3で横ばいとなっている。

一方で、東京都の業況DIは令和2年4月-6月以降回復傾向にある。

2 業種別における業況DIの推移

	1.製造業	2.印刷・同関連業	3.染色業	4.建設業	5.情報通信業	6.卸売業	7.小売業	8.飲食・宿泊業	9.不動産業	10.サービス業
R1.10～12	-35.1	-57.1	-68.8	-16.7	13.9	-32.4	-41.4	-26.5	-14.8	-17.8
R2.1～3	-30.0	-47.4	-88.9	-61.7	-52.6	-45.0	-58.5	-74.1	-35.3	-52.8
R2.4～6	-59.4	-84.6	-93.3	-50.0	-58.1	-71.9	-73.2	-97.0	-59.0	-53.6
R2.7～9	-87.2	-94.6	-93.8	-68.2	-58.5	-64.4	-65.5	-100.0	-64.3	-65.7



ほぼ全ての業種において、令和2年7月～9月期が最も低いポイントとなっている。

業種別では、「1.製造業」「2.印刷・同関連業」「3.染色業」「8.飲食・宿泊業」が特にポイントが低く、「8.飲食・宿泊業」では令和2年7月～9月期の業況DIは▲100で、回答した全ての企業が「業況が悪化した」と回答している。

一方で、「4.建設業」「5.情報通信業」「9.不動産業」「10.サービス業」については下降傾向にあるものの上記業種ほどポイントは低くはなく、「6.卸売業」「7.小売業」では令和2年7月～9月期は若干ではあるが前期から改善している。